



# Safe Crop Project News



No.1 2016年11月発行

「ベトナム北部地域における安全作物の信頼性向上プロジェクト（2016年～2021年）」は、北部地域2市11省において、「Basic GAP (Good Agricultural Practices)」を始めとする安全作物栽培の技術規範に沿った生産活動、消費者の安全野菜への信頼醸成、及び、多様なサプライ・チェーンの構築を支援することで、対象地域における安全作物栽培の振興を目指します。

## プロジェクト紹介

着実に経済成長を遂げているベトナムでは、農業分野の発展も順調に進んでおり、食糧安全保障の問題はほぼ解消されました。近年は、コメなどの主要農産物に加え、野菜や果物などの輸出拡大が見込まれています。一方、農産物生産の拡大に伴い、残留農薬や微生物による汚染が懸念されており、農産物の安全性確保が課題となっています。

ベトナム農業農村開発省(MARD: Ministry of Agriculture and Rural Development)は、ベトナムにおける適正農業規範(GAP: Good Agricultural Practice)として、2008年に「Viet GAP」を策定し、安全作物栽培の普及を目指していますが、現地の個別農家は、65項目からなるチェック項目や高額な認定料への対応が難しい状況にあります。こうした背景の中、JICAは

2010年7月から2013年12月までの3年6ヶ月間、「農産物の生産体制および制度運営能力向上プロジェクト」を実施し、「安全な野菜栽培」にかかる技術指導を行うとともに、現地生産者の実情を考慮した安全野菜栽培の技術規範として「Basic



プロジェクト(2013年終了)で設置した農薬空き容器回収箱は現在も大切に使用されています。

GAP」を提唱しました。この「Basic GAP」は上記「Viet GAP」の65項目の中から、栽培技術に直接関係する主要な26項目の

みを抽出し、記帳による自己申告制を導入したものです。農家は記帳により、これまで経験と勘に頼っていた肥料や農薬等の投入量を適切に管理することで、営農状態を改善することができました。この成果を受け、MARDは2014年7月に、「Basic GAP」を技術ガイダンス(Decision No.2998, 2nd July 2014, MARD)として正式に承認しました。一方、販売面では、安全野菜の差別化を図り、品質に見合った価格で取引できる販路を開拓していくことが課題となっています。

本プロジェクトでは、MARD作物生産局、対象市/省の農業農村開発局と連携しながら、「Basic GAP」を始めとする安全作物栽培の技術規範に沿った生産活動の支援を実施します。また、民間企業との連携や食の安全に関わる広報・啓発活動を通じて、消費者の信頼を得られる、多様なサプライ・チェーンの構築も支援することで、対象地域における安全作物栽培の振興を推進していきます。

【協力期間】 2016年7月～2021年7月(5年間)

【実施機関】 ベトナム農業農村開発省作物生産局

【プロジェクト目標】

ベトナム北部地域(対象2市11省)の対象サイトにおいて、安全作物(安全野菜)栽培が振興する。

【成果】

1. 農業・農村開発省作物生産局、地方省・市、郡、コミュニティの安全作物生産にかかるモニタリング、管理能力が向上する。
2. 生産現場の状況に応じてGAP(Basic GAP等)に則った安全作物の生産から消費までのサプライ・チェーンにかかる様々なパターン(「モデル」として)が提示される。
3. 生産者と購買者(消費者や卸・小売業者などのトレーダー)の安全作物生産と食の安全にかかる意識が向上する。

## キックオフミーティング開催

11月4日(金)に実施機関であるMARD作物生産局において、キックオフミーティングを開催しました。ミーティングでは、プロジェクトのベーシックアプローチや今後のモニタリング体制等についての話し合いを行いました。先行プロジェクト終了後、2年間掛けて本プロジェクトの準備を進めてきた作物生産局のディン次長を始め、出席者からは、トレーサビリティの確立や効果的な啓発活動等に向けて積極的な提案が上がりました。MARD作物生産局との密接な連携体制が確認されると共に、プロジェクトワークプランへの合意を含む議事録が署名され、活発な議論が繰り広げられたキックオフミーティングは終了しました。

翌週には、パイロット市/省(ハノイ市、フンエン省、ハナム省、ハイズオン省)の農業農村開発局とミーティングを開催し、

ベーシックアプローチの共有と連携体制の確認を行いました。

現在JICAプロジェクトチームでは、パイロット市/省の農業農村開発局と連携し、パイロット活動対象グループの選定、及び、生産管理システムの構築と広報・啓発活動のデザインに向けた、ベースライン調査やマーケッ



関係者にプロジェクトベーシックアプローチのプレゼンテーションを行う七久保総括

## 対象地域の紹介

本プロジェクトは、ベトナム北部地域 2 市 11 省（パイロット市/省：ハノイ市、フンエン省、ハナム省、ハイズオン省、セミ・パイロット省：タイビン省、フートー省、ビンフック省、経験共有省：クワンニン省、ハイフォン市、ホアビン省、バックニン省、ナムディン省、ニンビン省）を対象としています。今回は、パイロット市/省の中から、ハノイ市（消費地）とハイズオン省（生産地）のご紹介をさせていただきます。

## ハノイ市（消費地）

ベトナムの首都ハノイ市は、人口約 700 万人（2014 年）を擁し、ホーチミン市に次ぐベトナム第 2 の都市です。ベトナム李朝の初代皇帝が遷都してから 1,000 年に及ぶ歴史を有するハノイ市は文化遺産に恵まれ、また、市内に点在する湖沿いには緑が溢れており、しっとりとした落ち着いた都市です。

近年、顕著な経済成長と合わせて人口増加も進んでおり、ハノイ市では安全食品の供給を確保することが課題の 1 つとなっています。ベトナム料理は野菜が多くヘルシーな印象を持たれている方も多くいらっしゃると思いますが、ハノイ市における野菜需要は年間 100 万トンに及び、その内約 40%は他省で栽培された



野菜によって賄われています。市では、近隣省を中心に 21 省と安全な農産物をハノイ市場に供給するための連携合意を結んでおり、連携には近年需要が高まる安全野菜の生産と消費の促進も含まれています。また、民間の安全野菜の安全農産物展示販売会の様子（ハナム省ブース）販売店も徐々に増えてきており、こうした店舗の中には、消費者を対象に、産地を訪問し、生産者と交流しながら栽培工程を確認することができるツアーを開催している店舗もあります。一方、「安全野菜が手に入る

場所が自宅から遠い」、「安全と謳われている野菜が本当に安全か不安」等、背景には様々な理由がありますが、ハノイ市消費者の 90%以上が安全食品に関心がある中、実際には約 3%しか安全野菜を消費していないというデータもあり、ハノイ市における安全野菜のサプライ・チェーンはまだまだ発展途上といえます。

## ハイズオン省（生産地）

紅河デルタに位置するハイズオン省は、人口約 170 万人（2014 年）を擁し、ハノイ市とハイフォン市間を結ぶ国道と鉄道が通る交通の要衝となっており、日系企業も多く進出しています。

工業化が進む中、農業は引き続き重要な位置づけとなっており、ハイズオン省農業農村開発局は、「農産物の生産集中化、高付加価値化と持続的な発展を目指すプログラム（2016～2020 年）」を実施しています。表敬訪問したハイズオン省人民委員会のルン・バン・カン副主席からは、「ハイズオン省プログラム（上記）の一環で安全野菜栽培振興を実施しているが、特に販路開拓が課題となっていることより、パイロット省として選定されたことを歓迎する。」と本プロジェクトへの高い期待が寄せられました。また、農業農村開発局のフー局長からは、「パイロット省の中でもベストなサイトとなるよう、頑張りたい。」との決意表明が為されました。本プロジェクトでは、ハイズオン省農業農村開発局と連携しながら、現地の実情に合わせた生産管理システムの導入や販路開拓支援等を実施していきます。



ハイズオン省人民委員会で、プロジェクト概要を説明する熊代チーフアドバイザー

## JICA プロジェクトチームの紹介

本コーナーでは、JICA プロジェクトチームのメンバー紹介をさせていただきます。第 1 回目は熊代チーフアドバイザーのご挨拶です。

「ベトナム北部地域における安全作物の信頼性向上プロジェクト」のチーフアドバイザーとして本年 7 月よりハノイに赴任しております熊代輝義です。開発途上国における農業の位置付けを見



てみますと所得水準の低い段階では、まず穀物を中心に十分なカロリーを確保することが最も重要な課題であります。所得水準が向上するにつれて野菜や畜産物など農産物の需要が多様化するとともに品質や安全・安

心に対する志向も強くなってきます。ベトナムもまさにその時期にさしかかっていると考えられ、食品安全についての報道も多くなされるなど、消費者の安全作物に対する関心はますます高まっています。一方で現状を見てみますと、生産面においては BasicGAP 等に従った安全野菜の生産の拡大は重要ですが、安全野菜の契約等に基づくより良い販売を考えた場合に、協同組合による共同出荷も大きな課題の一つになります。また、現状における野菜の流通は卸売市場など伝統的な流通経路も、スーパーマーケットなど近代的な流通経路も十分整備されているとはいいがたい状況のなかで、安全野菜の流通を図っていく必要があります。ベトナム政府も従来から種々の取り組みを進めていますが、これを効果的に支援していければ良いと考えています。

プロジェクトは始まったばかりですが、成果をあげるべく皆様のご協力を得ながら事業を進めて行きたいと思っておりますのでよろしくお願い致します。

## 皆様のご意見・ご感想をお待ちしております

### JICA プロジェクト事務所

住所：Room 201, Department of Crop Production, Ministry of Agriculture and Rural Development,

2 Ngoc Ha Str., Ba Dinh Dist., Hanoi, Vietnam

Tel/Fax：+84 3244 4373